

平成26年度 第2期海域管理計画モニタリング評価シート

〈知床世界自然遺産地域科学委員会 海域ワーキンググループ〉

1. 評価項目

スケトウダラ（魚介類）

2. 評価項目の位置付け

[総合評価]

総 論	◇知床周辺海域の現状
	◇今後の方向性
	◇モニタリングについて
	◇その他

[横断評価]

地球 温暖化を 含む気候 変動	○季節海水の動態とその影響 ・海水の接岸時期変動 ・水温の変動 ・季節海水と海洋生態系
生態系 と 生物 多様性	○生態系 ・海洋生態系と陸上生態系の相互作用 ○生物多様性 ・食物網,生物多様性,平均栄養レベル

[個別評価]

海洋環境 と 低次生産	海水 水温・水質・加コイル・プランクトンなど
沿岸環境	有害物質
魚介類	サケ類 スケトウダラ
海棲 哺乳類	トド アザラシ
鳥類	海鳥類 海ワシ類
社会経済	資源環境、食料供給、産業経済、 文化振興、地域社会

3. 評価項目に関わる調査・モニタリング表

モニタリング項目	主な内容	調査名称等
スケトウダラの資源状態の把握と評価（T A C設定に係る調査）	スケトウダラの資源水準・動向	平成26年度我が国周辺水域の漁業資源評価（水産庁）
スケトウダラ産卵量調査	スケトウダラ卵の分布量調査	根室海峡卵分布調査（羅臼漁業協同組合）
「北海道水産現勢」からの漁獲量変動の把握	漁獲量を調査	北海道水産現勢（北海道）

4. 保護管理等の考え方

知床周辺海域のモニタリングや各種調査、情報収集に努め、地域の漁業者・漁業団体による自主的な取組を踏まえながら漁業法や水産資源保護法等の関係法令に基づいて、サケ類やスケトウダラの適切な資源管理と持続的な利用を推進する

5. 評価

(1) 現状

・根室海峡における漁獲量は、1980年代は増加傾向を示し、1989年度に最高の11.1万トンに達した後、急激に減少し、2000年度には1.0万トンを下回った。その後、漁獲量は0.8～0.9万トン前後で推移した後、2008年度には再び1.0万トンを上回り、2011年度は1.9万トンに急増した。2012年度以後漁獲量は減少し、2013年度の漁獲量は過去最低の0.8万トンであった。

・近年、羅臼側の根室海峡においては、ここ数年は羅臼以外の漁獲量が増加し、水温など環境変化の影響によると考えられる漁場、漁期の変化が認められており、これに伴い羅臼においては、産卵期の漁獲量が減少している一方で、羅臼や羅臼の南側の標津などで産卵期以外の若齢魚や産卵成熟前の個体の漁獲量が増加している。

・1981～2013年度の33年間の漁獲量の最大値11.1万トンと最小値0.8万トンの間を3等分して高・中・低水準とし、2013年度の漁獲量0.8万トンと低水準とした。

・知床半島を挟む斜里町、羅臼町では、それぞれで漁獲量及び漁獲金額の変化傾向は異なるが、いずれも圧倒的に羅臼町の方が多し。近年の漁獲量は斜里町では2012年まで増加傾向だったが、2013年では減少に転じた。羅臼町では減少傾向。両町合わせた2013年の漁獲量は前年を下回り、資源水準は依然低位にある。また、産卵親魚の来遊量の指標と考えられる産卵量指数も羅臼町における産卵期の漁獲量と同様の経年変化を示している。

・斜里町における2013（平成25）年の漁獲量は16トン、漁獲金額は480千円であり、いずれも前年を大幅に下回った。

・羅臼町における2013（平成25）年の漁獲量は6,762トン、漁獲金額は771,034千円であり、漁獲量、漁獲金額とも前年を下回った。

(2) 評価

評価	<参考> H25 (2013)	禁漁区の設定など、漁業者による自主規制の努力などもあり、低位ながらも資源は横ばいで維持されている。
	H26 (2014)	

(3) 今後の方針

今後の 方針	<参考> H25 (2013)	安定した漁業を持続的に維持していくために、漁業者による自主規制など資源保護への取り組みの協力も得ていく一方で、資源のモニタリングを継続していく必要がある。近年は産卵期以外に、魚価の安い若齢魚や産卵成熟前の個体の漁獲量が増加していることから、資源の有効利用の観点から、漁獲の仕方を検討する必要がある。 また根室海峡全体におけるスケトウダラ資源の保全のためには、ロシアとの学術的観点からの交流を含め、国後島側などでのロシア漁船による漁獲の状況などを含め、北海道本島側と国後島側双方における漁獲量などの漁業情報や資源状況などについて、日露両国における情報の共有化を図っていくことが必要である。
	H26 (2014)	

6. モニタリングの概要

(1) スケトウダラの資源状態の把握と評価 (根室海峡)

○スケトウダラの漁獲の動向

漁獲量は、1980年代は増加傾向を示し、1989年度に最高の11.1万トンに達した後、急激に減少し、2000年度には1.0万トンを下回った。その後、漁獲量は0.8~0.9万トン前後で推移した後、2008年度には再び1.0万トンを上回り、2011年度は1.9万トンに急増した。2012年度以後漁獲量は減少し、2013年度の漁獲量は過去最低の0.8万トンであった。

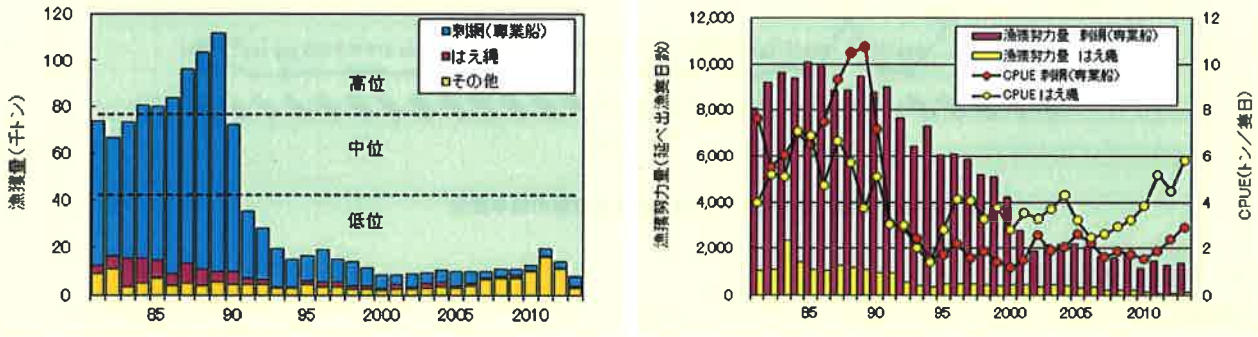


図6-1 スケトウダラの漁獲の動向
図出典:水産庁「平成26年度我が国周辺水域の資源評価 ダイジェスト版」

○資源の状態

1981~2013年度の33年間の漁獲量の最大値11.1万トンと最小値0.8万トンの間を3等分して高・中・低水準とし、2013年度の漁獲量0.8万トンを低水準と判断した。また動向は2009~2013年度の漁獲動向から横ばいと判断した。なお、従来の主漁期である産卵期荷行われている刺し網 (スケトウダラ専業船) およびはえ縄のCPUEは、近年5年間で増加傾向にある。

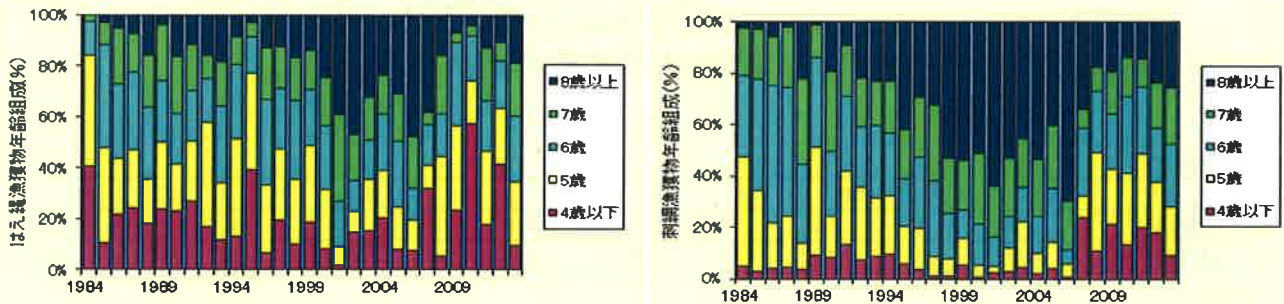


図6-2 スケトウダラ漁獲物の年齢組成
図出典:水産庁「平成26年度我が国周辺水域の資源評価 ダイジェスト版」

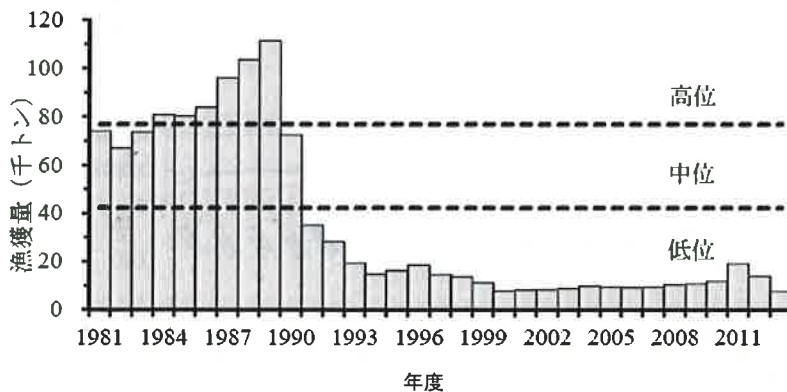


図6-3 スケトウダラ根室海峡の資源水準値
図出典:水産庁「平成26年度スケトウダラ根室海峡の資源評価」

(2) スケトウダラ卵の分布量

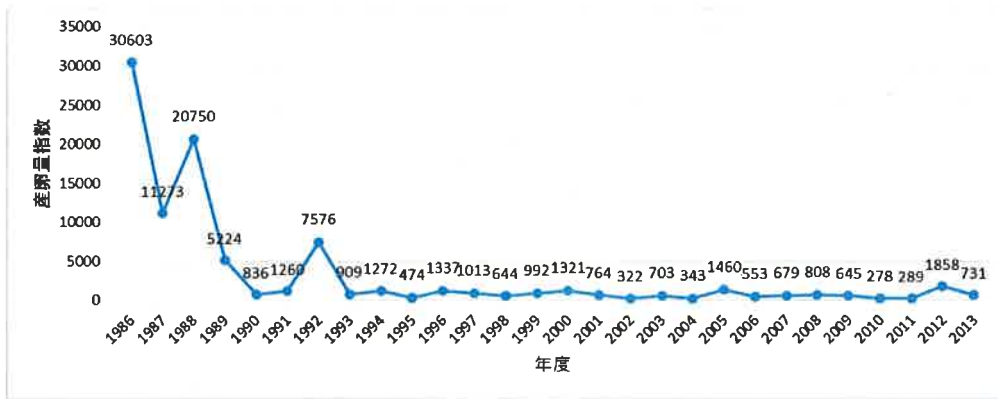
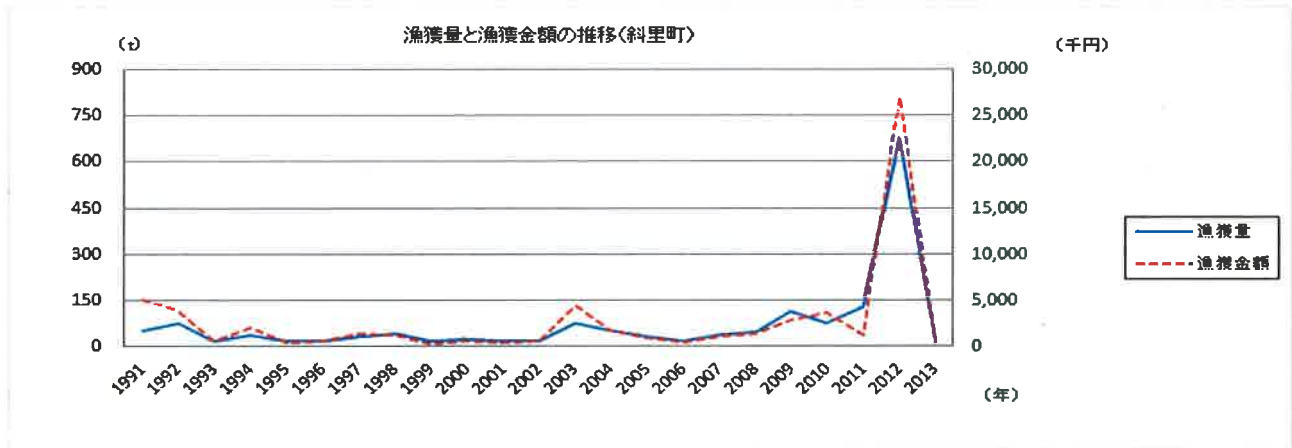


図6-4 根室海峡におけるスケトウダラ産卵量指数の経年変化

(3) 漁獲量・漁獲金額

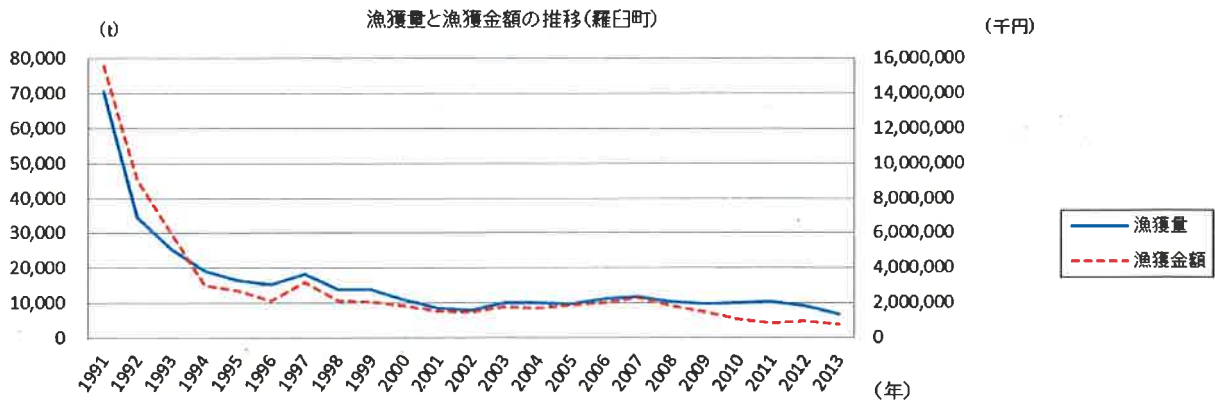
○斜里町



最近の推移

年	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
漁獲量(t)	76	53	32	19	37	48	113	74	130	675	16
漁獲金額(千円)	4,452	1,731	902	498	1,015	1,367	2,890	3,684	1,300	26,824	480

○羅臼町



※※※※※※※※※※

年	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
漁獲量(t)	10,077	9,951	9,637	11,319	11,849	10,234	9,738	10,013	10,224	9,182	6,762
漁獲金額(千円)	1,785,192	1,739,470	1,898,460	2,034,491	2,293,993	1,843,351	1,461,925	1,072,082	856,242	930,026	771,034

図6-5 漁獲量と漁獲金額の推移(斜里町・羅臼町)
出典:北海道「北海道水産現勢」